

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | | |
|----------------|---------------|----|--------|------------|
| ○事業所名 | AIAI PLUS 南流山 | | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2025年1月4日 | | ～ | 2025年1月31日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 55 | (回答者数) | 49 |
| ○従業者評価実施期間 | 2025年1月4日 | | ～ | 2025年1月31日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 10 | (回答者数) | 8 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2025年2月15日 | | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|---|--|
| 1 | ・お子様に担当指導員がいて、1対1の子別オーダーメイドのプログラムを実施している。指導員同士の連携があり作業療法士、保育士の配置、専門的な知識を活かし、お子様のよいところを伸ばす接し方を大切にしている。 | ・担当制にすることでお子様の課題や成長を理解しやすい為、支援での成長が大きいです。 ・個別プログラムを立てる際に指導員それぞれの得意分野を活かしたアドバイスを意識しています。 ・個別なら個別でできることを、複数なら複数でこそできることも意識しながら準備するようにしています。 ・MTGなどでお子様の様子や支援の仕方を伝え同じ方向性で支援ができるようにしています。 ・課題をお子様の発達段階に応じて変えている。お子様の好きなことを学習につなげられるように考えています。 ・1つの困り事に対して、両側の面から考えるようにしています。 | ・担当やサブ以外の指導員が支援に入っても支援の質が変わらないように工夫します。 ・プログラムを立てる際に、その年度の最終目標を意識して逆算して考えます。 ・それぞれの支援員の得意とする分野を伸ばし、支援を様々な角度から充実させます。 ・支援している子供達にだけではなく、支援員同士も得意分野や良さを認め、伸ばす。 ・AIAI PLUSとして統一されたアセスメント表をつくります。 ・この支援はこの目標(伸ばしたいところ)に効果があるということを意識して行います。 |
| 2 | ・支援後の共有で毎回保護者様と話す時間が持てる | ・課題をお子様にはお子様のプラス面、小さなことでも出来たこと、成長していることを伝え、保護者様がお子様のプラス面を見て頂けるよう心がけています。 | ・保育所との連携、ご家庭との連携、プラスに通所されている以外での行動をより把握します。 |
| 3 | ・保護者様に向けてのイベントに積極的で独自性がある | ・教材選定からプログラムの策定、イベントの企画や実施、児童をどのように支援していくか、職員それぞれが話し合い、事業所独自に行っていること。 ・自主性を大切にしています。 | ・インクルージョンな地域づくりのために、地域へも発信力を高める。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|---|--|
| 1 | ・採用力。人員の不安定さ ・人員が不足している日は訪問に伺えないこと | ・経験のある人材の採用がない、訪問へ行く事が可能な職員に限られています。 ・各施設の人員環境を無視した平等な業務量の割り振りから来る業務の多さ、個別でやることの不安 ・常勤の業務の幅が広く、人によっては負担が大きいと感じます。 ・入職前に得ていた業務内容の情報と入職してから知った業務内容のギャップ。 | ・長期的に働くことができる会社のみづくりを進めてほしいです。 ・共通のフォーマット、マニュアルを作る必要性を感じます。 ・職員同士が雑談もできるような時間の確保。需要に対して職員数が圧倒的に少ないです。 ・入職前に、求人記載の業務内容だけでなく実際の業務内容の説明をしっかりと行った上で意思確認を行います。 |
| 2 | ・週一回の通所のお子様が多く、学習が定着しづらい。 | ・AIAIの会社にてアセスメントを作成してほしいです。 ・本社からのサポートが少ないです。 ・お互いが何をしているのかや支援の方法など共通理解するのに難しさがあります。 | ・保護者様に利用を増やすご提案をしてみる。増やすことが難しいのであれば、課題を家庭でも行ってもらい、家庭の協力を得ます。 ・保護者様と支援員目標に対してどのように支援を進めていくのか、そのゴールに達するのにどのくらい支援が必要なのか共通認識を高めながら進めていきます。 |
| 3 | ・駅から距離があるにも関わらず送迎がないこと。 | ・保護者様の送迎の負担 ・送迎・預かりがなく、小学生になって放デイになる事を考えると、送迎付き預かり型の事業所に比べて保護者から見たメリットが少ないです。 | ・社用車の運転できる指導員が1人しかいないので、採用を強化してほしいです。 |